



7回目の御門徒インタビューは今回、札幌別院監事に就任していただいた中島浩盟氏です。自身の葬儀社の仕事を通じて、現代の若者が抱く無宗教の観念や、宗教離れに陥っている現状とその原因などについて、語っていただきました。

札幌別院監事 中島 浩盟さん

札幌別院とのご縁はどういったところからですか。

父親の仕事である葬儀社を手伝い始めてから別院に入りやすくなったのがきっかけですね。

若い時は別院の法要や行事などあまり興味がなく、宗教の大切さを感じていなかったのですが、単純に「浄土真宗なんだ」という範疇でしか捉えていませんでした。若い時つてそ

んなものじゃないですか。ですから、父が葬儀社を営んでいなければご縁はなかったような気がするし、うちが別院の門徒なんだというところもわからなかったと思います。それまで「門徒」という言葉すら知らなかったくらいです。だいたいの方は自分の親の葬儀を経験して、初めて「ここがうちのお寺なんだ」と知るんじゃないですかね。幼い頃からおじいちゃん、お



中島浩盟 (なかじま・ひろみ)
1961(昭和36)年生まれ
札幌別院監事
札幌別院推進会会員
株式会社極楽堂はなや代表取締役

葬儀で知る北の念仏

「宗教離れ」を食い止めよ

御門徒インタビュー

(1面より続く)
宗教離れの原因は何でしょうか。

昔は3世帯4世帯の大家族が主流で、子どもは生まれた時からおじいちゃん、おばあちゃんと住んでいました。そして例えば、おじいちゃんが亡くなったとなれば、孫はおばあちゃんと一緒に手を合わせてお参りし、お寺さんの姿を見て宗教感覚を身につけていたんだと思います。ところが今は核家族が主となり、まして家庭にお内仏がなければ

ば孫は手を合わすことも、僧侶と接する機会も少なくなりますよね。葬儀を斎場や会館などで行うと、普段見ないお寺さんの姿を目にするものだから、幼い子どもは不思議

ますますお寺に来る機会がなくなってしまう、お寺とは関係ないから何でもいいとなるのでしょうか。本当に悲しいことで、伝統的な葬儀のかたちが崩れてしまっています。あ

孫に「うちはお東なんだよ」とちゃんと伝えていないから、つながりが途切れてしまっています。だからこそ、僧侶の方が法話の席で少しでも「東本願寺の門徒なんです

「仏前結婚もできるんですよ」

とそこをお寺と思いついてしまふんです。自分の菩提寺が東本願寺だとわ

まり無宗教の人が増えると思はれなくないと思はれますよ。我々僧侶はどうすべきでしょうか。祖父母や親が子どもや

よ」と植え付けていかないとならないと思はれます。何百人という前でメッセージを伝えることができ、尚且、黙ってお話を聞いてくれるんですから。

それと仏前結婚式もできると言うことを言わないとならないですよ。チャペルや神前の結婚式はよくありますが、門徒さんが仏前で結婚式を挙げる人はほとんどいないですよ。それは、お寺でできると思っている人が少ないからですよ。認知されてないと思います。葬儀や法事だけがお寺ではないことをもっとアピールしないといけないと思いますよ。

貴重なお話ありがとうございました。

宗教離れの現状を教えてください。

特に現在30から50代くらいまでの方を見ていると、宗教に対する意識が薄いように感じます。いざ自分の親が亡くなると

も定義的なものがないのが無宗教ですよ。それでも全く何もない状態は寂しいものだから「蠟燭を用意してほしい」などと言われる。それに対して「では参列に来られたらどうか」と聞くと、「それじゃ線香ぐらい用意しようか」との答えです。これは仏式ですよ。最後に焼香の代わりに献花を取り入れる。これはキリスト教的要素です。仏教もキリスト教もミックスされて、何でも有りなんです。そのような状況に對して意見するお坊さんも宗教者もいないですね。だから何をしてもいい状態に陥っているように思

います。(2面へ続く)